

精 | 誠
皮 | 心
啓 | 三
寶 | 焚
香 | 告
百 | 靈
書 | 名
投 | 水
府 | 功
敷 | 達
上 | 清
胎 | 化
靈 | 禽
啖 | 九
天 | 雪
毛 | 丹
頂 | 兩
相 | 鮮
世 | 人

白鶴

玉音法事卷上

美 | 華
歸 | 來
表 | 瑞
平 | 德
萬 | 年

正一天師清微弟子 洪百堅 製作

道教學術資訊網

玉音法事卷中

卷二

玉清樂引

玉 | 清
清 | 樂
玉 | 清
聖 | 境
異 | 諸
天 | 玉
清 | 樂

玉清樂

地 | 居
天 | 上
接 | 空
居 | 玉
萬 | 象
森 | 羅
適 | 八
區 | 玉
功 | 用
不 | 知

誰たれのまらん。主しゅのまらん。玉たまのまらん。幸さちのまらん。霞かすみのまらん。丹にのまらん。霧きりのまらん。閑いのまらん。清せいのまらん。都みやこのまらん。王わうのまらん。

上清樂引

上じやうのまらん。清せいのまらん。真まことのまらん。境さかいのまらん。會あひまひのまらん。高たかのまらん。仙せんのまらん。上じやうのまらん。清せいのまらん。樂がくのまらん。

上清樂

紫むらさきのまらん。清せいのまらん。天あまのまらん。上じやうのまらん。育うのまらん。華はなのまらん。林はやしのまらん。上じやうのまらん。絳せうのまらん。實じつのまらん。

未みのまらん。朽くのまらん。緑ろくのまらん。葉はのまらん。深ふかのまらん。上じやうのまらん。咀くのまらん。爵しやくのまらん。繁ひらのまらん。英えいのまらん。

身みのまらん。不ふのまらん。老らうのまらん。上じやうのまらん。下げのまらん。觀くわんのまらん。鳥とりのまらん。兔うのまらん。換かのまらん。光くわうのまらん。陰いんのまらん。上じやうのまらん。

太清樂引

太たいのまらん。清せいのまらん。樂がくのまらん。清せいのまらん。太たいのまらん。何なにのまらん。趣しゆのまらん。以いのまらん。道だうのまらん。遙はうのまらん。太たいのまらん。清せいのまらん。樂がくのまらん。

太清樂

太たいのまらん。一いつのまらん。玩わんのまらん。君きみのまらん。掌ていのまらん。列れつのまらん。仙せんのまらん。太たいのまらん。形かたちのまらん。輝くわいのまらん。絳せうのまらん。彩さいのまらん。射しゃのまらん。芝しのまらん。田でんのまらん。太たいのまらん。功こうのまらん。圓えんのまらん。會かいのまらん。遇ぐのまらん。刊かんのまらん。名なのまらん。藉せきのまらん。太たいのまらん。可かのまらん。但たのまらん。洪ほうのまらん。崖げんのまらん。笑わらのまらん。拍ぱくのまらん。肩かたのまらん。太たいのまらん。散さんのまらん。香かうのまらん。花はなのまらん。樂がくのまらん。

散花引

散字下小法於字伴也同如

散ハらハらハら。花ハらハらハら。
 禮ハらハらハら。散ハらハらハら。
 香ハらハらハら。花ハらハらハら。
 樂ハらハらハら。満ハらハらハら。
 道ハらハらハら。場ハらハらハら。
 衆ハらハらハら。真ハらハらハら。
 前ハらハらハら。供ハらハらハら。
 養ハらハらハら。
 絳ハらハらハら。御ハらハらハら。
 徘ハらハらハら。廻ハらハらハら。
 引ハらハらハら。散ハらハらハら。
 天ハらハらハら。花ハらハらハら。
 散ハらハらハら。漫ハらハらハら。
 飛ハらハらハら。満ハらハらハら。
 道ハらハらハら。場ハらハらハら。
 高ハらハらハら。真ハらハらハら。
 無ハらハらハら。染ハらハらハら。
 看ハらハらハら。散ハらハらハら。
 片ハらハらハら。片ハらハらハら。

五言散花

不ハらハらハら。沾ハらハらハら。
 衣ハらハらハら。満ハらハらハら。
 道ハらハらハら。場ハらハらハら。
 日ハらハらハら。月ハらハらハら。
 相ハらハらハら。催ハらハらハら。
 人ハらハらハら。漸ハらハらハら。
 老ハらハらハら。散ハらハらハら。
 不ハらハらハら。如ハらハらハら。
 修ハらハらハら。道ハらハらハら。
 學ハらハらハら。長ハらハらハら。
 生ハらハらハら。満ハらハらハら。
 道ハらハらハら。場ハらハらハら。
 人ハらハらハら。各ハらハらハら。
 恭ハらハらハら。敬ハらハらハら。
 志ハらハらハら。心ハらハらハら。
 歸ハらハらハら。依ハらハらハら。
 十ハらハらハら。方ハらハらハら。

七言散花

三歸依

起敬讚

教坐讚

道ハらハらハら。寶ハらハらハら。
 當ハらハらハら。願ハらハらハら。
 珠ハらハらハら。靈ハらハらハら。
 起ハらハらハら。心ハらハらハら。
 回ハらハらハら。向ハらハらハら。
 一ハらハらハら。切ハらハらハら。
 信ハらハらハら。禮ハらハらハら。
 志ハ心ハ皈ハ依ハ十ハ方ハ經ハ寶ハ當ハ願ハ七ハ衆ハ生ハ心ハ開ハ悟ハ解ハ受ハ持ハ轉ハ誦ハ有ハ障ハ礙ハ。

道ハらハらハら。場ハらハらハら。
 衆ハらハらハら。等ハらハらハら。
 執ハらハらハら。簡ハらハらハら。
 當ハらハらハら。心ハらハらハら。
 平ハらハらハら。坐ハらハらハら。
 如ハらハらハら。法ハらハらハら。
 稽ハらハらハら。首ハらハらハら。

開經

虛々々々々々々々。皇々々々々々々々。
天々々々々々々々。尊々々々々々々々。
前々々々々々々々。

宿命讚

宿々々々々々々々。命々々々々々々々。
有々々々々々々々。信々々々々々々々。
然々々々々々々々。

三聞經

聞々々々々々々々。經々々々々々々々。
已々々々々々々々。後々々々々々々々。
唯々々々々々々々。願々々々々々々々。
來々々々々々々々。生々々々々々々々。
深々々々々々々々。入々々々々々々々。
法々々々々々々々。門々々々々々々々。
歸々々々々々々々。依々々々々々々々。
信々々々々々々々。受々々々々々々々。

聞經已後唯願來生萬罪並消善芽增長
聞經已後唯願來生永斷執速常歸正道

解坐讚

為諸來生 作善因緣 如蒙開悟 仰荷宏恩

為々々々々々々々。諸々々々々々々々。
來々々々々々々々。生々々々々々々々。

每遇齋單道

齋々々々々々々々。福々々々々々々々。
無々々々々々々々。量々々々々々々々。

唱道讚

道々々々々々々々。場々々々々々々々。
衆々々々々々々々。等々々々々々々々。
人々々々々々々々。各々々々々々々々。
運々々々々々々々。心々々々々々々々。
歸々々々々々々々。命々々々々々々々。
三々々々々々々々。寶々々々々々々々。
一々々々々々々々。切々々々々々々々。
念々々々々々々々。

按藏經離儀卷所載每遇唱道時知聲舉

至末句道眾默念天尊三聲或五或七或

九聲如陽熊念長生保命天尊福生無量

天尊陰熊念太一救苦天尊

華夏讚 又曰華夏

按玉篇華字注華夏三千五百里為華夏

言其迢遠之意今華夏用思真堂舉起徐
徐吟詠過廊廡登殿壇而畢似取其迢遠
之意也

轉聲華夏讚

學々々々々々々々。言々々々々々々々。
學々々々々々々々。行々々々々々々々。
言々々々々々々々。賀々々々々々々々。

請五師 再舉

賀々々々々々々々。何亞々々々々々々。
夏亞々々々々々々。賀々々々々々々々。

修々々々々々々々。齊々々々々々々々。
行々々々々々々々。道々々々々々々々。
奉々々々々々々々。請々々々々々々々。

玄中大法以經籍度三師
降々々々々々々々。臨々々々々々々々。

壇々々々々々々々。所々々々々々々々。

雲輿頌

雲々々々々々々々。與々々々々々々々。
已々々々々々々々。降々々々々々々々。

鶴々々々々々々々。駕々々々々々々々。

來のまらふ 臨のまらふ
齋のまらふ 事のまらふ
功のまらふ 圓のまらふ
還のまらふ 當のまらふ
奉のまらふ 送のまらふ

送五師 丹奉

修齋已畢 仰荷玄恩 志心稽首奉送
玄師天師經籍度師

雲輿頌

雲輿不住 鶴駕難留 後有修齋 還當奉請

請符使

修のまらふ 齋のまらふ
奉のまらふ 請のまらふ
社のまらふ 界のまらふ
直のまらふ 符のまらふ
降のまらふ 臨のまらふ
壇のまらふ 所のまらふ
三界直符 四直功曹 上臺靈官 神將吏兵
土地正神

步虛詞

太極の分を高く厚く
輕く清く上へ上へ屬して天に
人の能く修へ至る道に
身の乃ち作し真の仙に
行はば溢る三の千の數に
時丁卯の四萬の年に
丹臺の開き實の笑に
金口の流る傳へ

三塗頌

三才の及萬の物に
倚伏の各一有の數に
終始の待一切の傾に
福盡の天地の道に
往返の於五の生に
苦哉の更死の生に
展轉の三塗の中
去來の與の禍を并
斗經末句
非の示るる人

戒の慎るる
之の馬の

禮十方

志の心の歸る命の禮の
東の方の無の極の太の
上の靈の寶の天の尊の

禮十一曜

志の心の歸る依る信の
禮の日の宮の太の陽の
帝の君の

舉信禮祭範

信の禮の無の上の太の
羅の天の長を生る保の
命の護の身の天の尊の
十三號同

關燈舉斗位

信の禮の高の上の紫の
微の垣の北の斗の食の
狼の星の君の

三檢上香

志心清淨 心念專一
 檢心上香 官一過
 清心淨口 境成
 蓋香供養 養心
 祝 一 拜 叩

易名三上香

初 混元三境
 二 檢上香至洞天宮過洞天仙府成寶蓋供養
 三 淵泉

混元三境尊

洞天仙府君
 淵泉水府君

玉音法事卷中

玉音法事卷下

啓經文

道衆平坐 舉起敬讚 次三皈依
 次教坐讚 誦念如法 表白啓經

雲蒙太虛浩劫之初乍避乍遷或沉或浮五
 方徘徊一丈之餘天真皇人按筆乃書以演
 洞章次書靈符元始下降真文誕敷昭昭其
 有冥冥其無沉疴能自痊癒夢溺可扶幽明
 將存歿由是昇仙都發如是上願者以今陞
 入經座謹奉為增延壽算兼養身躬凡歷
 時中吉祥如意伏願東華注算南極延生福
 與海以同深壽比山而永固為此因緣念禍
 生無量天尊延壽益算天尊長生保命天尊
 無量不可思議功德

開經法事

看誦寶經 經畢

次舉促吟步虛

表白嘆經

詳夫三洞寶經乃萬天聖範結飛玄之妙炁
 成大梵之龍章義貫浮生文垂永劫故天地

卷三

得之而分判日月因之以運行鬼神敬之則
 變通人能奉之乃開泰是以詠之者形陟絳
 霄聞之者身騰碧落莫不人天仰賴生化依
 憑為群品之津梁作來真之戶牖不可得而
 言之者其為大乘經蘊乎向來奉為今辰齋

主恭誦誦太上真經其經也莫不開函演與
 響徹三天執卷吟哦聲聞九地當願侍香金
 童結香字於天中與經玉郎進經文於簡上
 即使愆消昔劫福降今辰存亡希聞泰之恩
 動植感生成之德來茲善利遍悉莊嚴三塗
 罷毒之勞九夜絕辛酸之苦消乎悠悠庶
 品蠢蠢合生俱登六度之舟並上三清之岸
 法衆虔誠開經讚誦

次舉開經

就手收經 次解坐讚

向來誦經功德上祈真聖保佑平安同賴喜
 功證無上道一切信禮

次回向

天回雲漢結真炁以成文地發琅函顯靈章
 而出世功參造化利益人天